

2021.9.30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：10月5日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室
○対象：幼児 ○定員：6組

★「秋のスペシャルおはなし会」

○日時：令和3年10月30日（土）11：00～11：45 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室
○内容：パネルシアターなどによるおはなし会 ○対象：幼児（4歳以上）、小学生（3年生以下）、保護者（1名まで）
○定員：6組（要申込み・先着順） ○参加費：無料

★第2回学校図書館セミナー

○日時：令和3年11月12日（金）14：00～16：00（受付13：30～）
○会場：山口県立山口図書館 マルチメディアデジ室よりMicrosoft TeamsによるLive配信
○講師：堀川 照代氏（オンライン配信）
○内容：【講義】「学校図書館活用で育む〈読む力〉と〈情報活用能力〉」
○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、教育委員会指導主事等
○定員：オンライン参加のみ50名（要申込み・先着順）
○申込方法：電子メールのみ（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）
○申込締切：令和3年10月22日（金）17時（定員になり次第締め切り） ○参加費：無料

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【お知らせ】

山口県立山口図書館では、10月1日（金）から電子図書館の運用を開始します。利用案内はこちらから → <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>



【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本—乳幼児から>

『すやすやおやすみ』 石津ちひろ/ぶん 酒井駒子/え 福音館書店 2021.7 ¥800

ひらひら飛んでるちょうちょさん、みやあみやあないてる子ねこさん、ころころ転がるりんごさん、かつたんこつときしゃぼんぼ、みんなみんなおやすみなさい。ふっくらほっぺのはるこちゃんも、おめめをつむって、すやすやおやすみ、よい夢みてね…。シンプルで心地よい言葉のリズムと、美しく静謐で繊細な画が眠りの世界に誘ってくれるおやすみなさいの絵本。

<絵本—3, 4歳から>

『とじょかんのきょうりゅう』 鈴木まもる/作・絵 徳間書店 2021.6 ¥1600

ぼくは図書館が大好き。日曜日は妹と弟と一緒にいろんな本を読みこいく。ある日、図書館のトイレに行く通路で、『きょうりゅうも どうぶつだ』という大きな本を見つけた。表紙を開くと、そこは恐竜の世界で…。今いる動物と恐竜と一緒に描かれ、その大きさや形を比べながら、恐竜についての知識を深めることができる。図書館でいろいろな本と出会う楽しさを描いた絵本。

<絵本—5, 6歳から>

『どうぶつ勝負(かちまけ)はっけよい!』 大橋慶子/作・絵 教育画劇 2021.7 ¥1300

今日は動物たちのすもう大会。まずはカバの取り組み。「はっけよーい!のこったのこった!」大きな口をばっ!カバは口を大きくあけた方が勝ち。お次はナマケモノ。ナマケモノの勝負(かちまけ)はどうやって決まるのかな?クジャクは?ライオンは?いろんな動物の決まり手がわかる楽しいしかけ絵本。巻末に「まだまだあるよ!こんなどうぶつ勝負(かちまけ)ずかん」付き。

<絵本—小学校低学年から>

『しらすどん』 最勝寺朋子/作・絵 岩崎書店 2021.7 ¥1400

「そろそろごはんよ」とお母さんによべれたりょうくん。しらすどんを食べ終わり「ごちそうさま」と席を立つと、「まだあるよ」とどんぶりによびとめられる。「だいたい食べたんだからいいじゃない」と言い放つりょうくんは怒り、底に残っていた一匹のしらすにされてしまう…。海洋プラスチック問題を考える市民グループとしても活躍中の作者が描く食育絵本。

<絵本—小学校中学年から>

『楽園のむこうがわ』 ノリタケユキコ/作 椎名かおる/文 あすなろ書房 2021.6 ¥1500

島に上陸した二人の少年。それぞれ理想の家を建てはじめる。見開きの左側には、白いシャツの少年が森と調和した、自然と共生する家を。右側には、黒いシャツをきた少年が、森を切り拓いて建てた都会的な家を。ページをめくるごとに季節はめぐり、選ぶものによって二人の暮らしはどんどん対照的に、家のまわりの環境も少しずつ変わっていく。細かく描きこまれた美しい絵本。

<絵本—小学校高学年から>

『秋』 かこさとし/文・絵 講談社 2021.7 ¥1600

爽やかに澄んだ空気、美味しい果物、秋は本当にいい季節。そのすてきな秋をととても嫌いになった時があった。それは昭和19年の

戦争のさなかのこと。食料不足、盲腸の治療をしてくれた先生の招集と死、落下傘の開かない戦闘機の飛行士の悲劇…。「青い空や澄んだ秋晴れは、戦争のためにあるんじゃないんだ。」戦争を憎み、平和を強く願い続けたかこさとの経験と思いがつまった絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『くしゃみおじさん』 オルガ・カブラル/作 小宮由/訳 山村浩二/絵 岩波書店 2021.7 ¥1300

古い荷馬車を引いて廃品回収に回るおじさんのくしゃみは、「ヒヤッックション! ハッックチン! ハッップショーイ!」この大きなくしゃみのせいで、仲良しの犬とうさぎとねこの耳や声が入れ替わってしまい大騒動。おじさんにもう一度くしゃみをして元に戻してもらうために、他にも困っている動物たちと一緒に、おじさんを探す…。元気で楽しい絵童話。

<読み物—小学校中学年から>

『パピはカッパか!?』 中山聖子/作 下平けいすけ/絵 文研出版 2021.7 ¥1300

双子の姉弟である小3のリコとぼく。パパの農作物の研究のためにこの田舎に引っ越してきた。パパは研究中のキュウリを、毎日山ほど持って帰る。そういえば、近くの沼のカッパの石像はパパそっくり。ついには、リコが「パパはカッパだ、こうらを見た」と言い出す。パパは本当にカッパか!?確かめるために、石像のある馬尻沼へ向かうと…。作者は、山口県出身の児童文学者。

<読み物—小学校高学年から>

『縄文の狼』 今井恭子/作 岩本ゼロゴ/画 くもん出版 2021.6 ¥1500

時代は1万年あまり前の縄文時代。総勢10人余りで生活している集団の赤ん坊が狼にさらわれた。2か月後、狼に育てられていたその子は助け出される。キセキと名付けられたその少年は、一緒に保護された狼の子どもオオアシと共に成長していく。キセキが13歳になった夏、船で漂着してしまった見知らぬ島での生活が始まる。縄文時代の生活も細かく描き込まれた読み応えのある作品。

<読み物—中学生から>

『家族セッション』 辻みゆき/著 講談社 2021.7 ¥1400

13歳の誕生日に、生後間もなく病院で「取り違え」られたことを両親から告白された千鈴。しかも「取り違え」られたのは同じクラスの姫乃と菜種の3人。これまでどおりの家族を続けるべく、親たちに反抗するが…。題名の「セッション」とは、その場に集まった演奏者で合奏すること。3組の異なる家族の交流を通して「家族」の在り方に気づかせられる物語。

『On A Bright Summer Morning』 小手鞠るい/著 グレン・サリバン/英訳 偕成社 2021.8 ¥1500

第65回(平成31年度)青少年読書感想文全国コンクール課題図書 中学校の部に選ばれ、小学館児童出版文化賞を受賞した『ある晴れた夏の朝』の英語訳。様々なルーツをもつアメリカの高校生が原爆投下の是非について行うディベートを通して、平和とは何かについてあらゆる角度から考え直すきっかけとなる物語。英訳が出版されたことを機に、原著を読み直したり、読み比べたりするのもおすすめ。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『じいちゃん、出発進行!』 藤川幸之助/さく 天野勢津子/え クリエイトかもがわ 2021.5 ¥1800

昔、小さな駅の駅長をしていたじいちゃん。散歩をしながら駅や列車の話をしてきていたが、認知症になってからは、ぼくと手をつないで散歩をするように。ある日、散歩の途中の事故で、ぼくとじいちゃんは入れ替わってしまう。うまく言葉が出てこなかったり、時計が分からなくなったり。じいちゃんはこんなにも困っていたなんて。認知症についてわかりやすく伝える本。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『止めなくちゃ!気候変動 わたしたちにできること』 ニール・レイトン/作・絵 いわじょうよしひと/訳 向井人史・大山剛弘/日本語版監修 ひさかたチャイルド 2021.7 ¥1600

「気候変動」とは、気候が変わることで地球全体の環境が変わってしまうこと。地球が生まれた約45億年前から、気候が変わっていくことで生命が誕生し生き物が生きていく仕組みができた。そして今、温室効果ガスの増加による地球全体の気温の上昇で様々な問題が起こっている。私たちにできることは…?ユーモラスなイラストとわかりやすい文章で解説する。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『災害伝承の大研究』 佐藤翔輔/監修 PHP 研究所 2021.9 ¥3200

「災害伝承」とは、地震、台風、火山噴火などの被災体験を未来へ伝えること。昔から様々な自然災害に見まれてきた日本では、文書や図面、石碑や物語、行事などの形で記録を残し、災害から得た教訓を未来に伝えて、人々の命や暮らしを守ってきた。この災害伝承の具体的な例や取り組み、現在の災害伝承のかたちや未来に向けての伝え方などを解説する。

<ノンフィクション—中学生から>

『わたしは夢を見つづける』 ジャクリーン・ウッドソン/著 さくまゆみこ/訳 小学館 2021.8 ¥1600

著者はオハイオ州に生まれ、母親の実家であるサウスカロライナで育ち、ニューヨークに移り住み、多様な文化に囲まれて成長した黒人女性。自分の家族との思い出、人種差別、作家へ憧れる気持ちなど、自らの半生を散文詩の形式で綴った作品。全米図書賞をはじめとするアメリカの主要な児童文学賞を数多く受賞。2020年国際アンデルセン賞作家賞受賞。

<研究書>

『こぐまちゃんとしろくまちゃん 絵本作家・わかやまけんの世界』 世田谷美術館ほか/編 中日新聞社 2021 ¥2000

1970年に誕生した「こぐまちゃんえほん」シリーズ誕生の経緯、下絵から印刷までの工程など、創作の裏側を知ることができる展覧会『こぐまちゃんとしろくまちゃん 絵本作家・わかやまけんの世界』の図録。2015年に亡くなった絵本作家若山憲氏の作家活動の全容も紹介されている。巻末に略年譜、著作リスト、主要文献一覧、展覧会の出品リストあり。

『中学校学校図書館における生徒の居方に関する検討』 新居池津子/著 風間書房 2021.6 ¥8000

「学校図書館学研究」や「読書科学」等に掲載され、東京大学大学院に提出された修士論文に加筆・修正された研究書。公立中学校の学校図書館でフィールドワークを行い、利用者の行動を様々な視点から分析している。授業中と休憩時間の教師から生徒への対応の違いや、書架や閲覧席の配置の仕方による生徒の流れの違いなど、現場の参考となる事象も多く紹介されている。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。取書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。